



【2017-01-04】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『暖かい日、成田山公園
（新勝寺）の散歩』

長野修二

暖かい日、成田山公園（新勝寺）の散歩

成田山新勝寺は平成30年4月に[開基1080年](#)となるようで、歴史の流れの中で言えば、創建は「平将門の乱」の時代だということを最近知り、大変驚きました。初詣では毎年約300万人ほどが訪れており、全国でも2番目に参詣者が多いお寺ですが、お正月を除けば、また特別なイベント（有名な節分など）がなければ比較的ゆっくりと参詣できるところです。

しかも、大本堂の裏には広大な成田山公園を有しており、四季折々にすばらしい景観を楽しめます。

JR、京成ともに成田駅から歩いていくことができ、約3時間程度ゆっくりと歩けば本殿から成田山公園全体をみてまわることができます。

私は人が多い時期は苦手ですので、ゆっくりと景色を眺めながら散歩ができる時期、12月、2月とか、5月の下旬、あるいは10月の天気の良い日のいずれも平日に訪れることにしています。

ちなみに初詣は比較的人が少ない芝の「[増上寺](#)」にしていますが、このごろは先祖のお墓参りにいくことが多くなりました。

成田山新勝寺にいけば、まずは有名な[大本堂](#)で参詣することになります。

その途中には「[総門](#)」があり、さらに1831年創建の「[仁王門](#)」がありますが、その下に大提灯がぶら下がっています。

この提灯、築地の魚河岸が奉納するのが習わしのようです。



本殿の脇には、「三重の塔」は開基1070年祭に合わせて修復されており、建立された300年前と同じ鮮やかな極彩色が蘇っています。

さらにその奥には「聖徳太子堂」があり、こちらも色鮮やかな建物です。



大本堂の参詣のあと、聖徳太子堂のほうへ歩いていけば「[成田山公園](#)」の入り口が見えてきます。

およそ東京ドーム約3.5個分 (16万5000m²)にも及ぶ広大な公園が整備されています。



入り口が成田山の頂上近くにあるためその後は、庭園や木々を眺めながら下り坂を下りていくことになります。



その途中には大きな墓石を多くみることになりますが、その歴史はかなり古いもの
ようです。



坂を下りたところに「[文殊、竜樹、竜智](#)」と呼ばれる3つの池がり、その周辺を散策することができます。



水面に映える紅葉や梅の花をみながらの散策はゆったりとした気分が味わえます。竜智の池には「[浮御堂](#)」があり、そこからの景色は見どころのひとつでしょうか。四季折々に池全体の景色を見渡すことができるでしょう。



その渡り橋では鯉が沢山集まってきてくれますので、優雅に泳ぐ姿がまた特別な風情を出してくれます。



さらに旧本堂へ行く途中に「雄飛の滝」があり、ちょっとした溪谷の風情が漂っているところです。



「雄飛の滝」から成田山の頂上付近に上がってくれば、光明堂（旧本堂）や開山堂、あるいは額堂などが存在しています。



公園内には多くの木々がありますから野鳥たちにもしばしば会うことができますが、この日はモズ？やシジュウカラからがいましたが、天気がよく暖かったせいか、シジュウカラたちは数羽で水浴びに夢中のような様子でした。



最後は大本堂の裏にある裏仏、不動明王の本地仏大日如来が奉安されていますのでここでお参りをして帰ることになります。

大本堂の回廊から真正面に不動明王などの石像が並んでいますが、シジューカラたちは幸せにも、ここで水浴びを楽しんでいたのです。



帰りは総門をでれば参道となり、お土産物屋さんやうなぎ屋さん、あるいは蕎麦屋さん、そして大正、昭和レトロな建物が目を引きます。



行かれる方は参道は一方通行ですが、狭い道をバスや車が通りますから十分な注意が必要です！

[【境内マップ】](#)